



3
2021

長年活動を続けてきた OTS の委員会活動ですが、今年から【カイゼン活動】と名称を変えより業務改善に主眼を置いた活動へと進化いたしました。
従来の委員会に加え、プロジェクトという形で新規の活動を積極的に展開していくことになります。
今回は新任の委員長及びプロジェクトリーダーに所信を表明していただきました。

CS委員会

同じことを繰り返さない仕組みづくりを

4月中旬からお客様に対して web 上で CS アンケートを実施する予定です。お客様にはお手数をおかけすることになりますが、普段のやり取りでは聞くことのできないご要望やご意見をお聞かせいただけるのではないかと期待しております。

お客様の商流の多様化に伴い物流も複雑化してきている昨今ですが、発生してしまったミスはその場しのぎでやり過ごすのではなく、根本原因の追及・カイゼンまでを一連の流れに落とし込み、再発の防止をより強化していきたいと思っております。

今期全業務 60%のマニュアル化を目標としており、TeachmeBiz 等を使用した社員教育にも力を入れていくことで、改善策が継続して実施されるような土壌づくりにも力を入れていきます。

CS委員長
中野 稔

親睦委員会

CS向上にも通じる親睦活動とは

私たちの活動を通じて、社員だけでなくパディさんも含めてコミュニケーションの本質を理解しその能力を高めていけるような企画を実施できるよう委員会の皆でアイデアを出し合っているところです。

コミュニケーションをただ「皆と仲良く話をする」という意味で捉えるのではなく、意思の疎通が不十分なことで業務上のミスや無駄が発生してしまうという事を十分に理解してもらうことが第一と考えています。コミュニケーションをストレスに感じる方もいますが、円滑な人間関係は周りだけではなく自分にも大きなメリットがあるということに気づいていただき、話す力・聞く力をつけられるような催しを企画していきたいです。会話力・提案力をつけることでお客様の求めるものをしっかりと捉えられる能力を持った社員を育てていくことを目標としています。

親睦委員長
北野 麗夏

5S委員会

倉庫業にとって5Sがいかに重要か

私たち倉庫業にとって5S（整理 / 整頓 / 清掃 / 清潔 / 躰）は「基本のキ」と言うべきものです。特に整理整頓は業務効率の向上やミス・事故のリスクを下げるためにも重要だと考えています。

OTSの5S活動の歴史は長いですが、ここ数年で新しい社員が数多く入社したこともあり、今一度5Sの重要性について全員に理解していただけるような活動をしていきたいです。若手はもちろんですが、ベテラン・先輩社員にも積極的に参加いただけるよう施策を考えていきます。

まずは皆様に自センターや自フロアの「困っていること」の洗いだしをしていただき、現状の問題点や課題を認識していただくことが大事ではないかと考えています。問題点や課題は視点を変えれば「カイゼンの種」ともいえるものです。

このカイゼンの種探しを手始めに活動をしていく予定です。

5S委員長
筱原 巧太

広報委員会

企業価値を高めるのは社員自身

企業の価値を外に向けて発信するのが広報活動ですが、まずそのためには社内の人間が会社のことをよく知ることから始めなければならないと思います。

OTSにはファッション物流だけではなく、ジュエリー物流・修理部門・撮影部門・在庫販売部門等々、様々な部門 / 専門職があり、長く働いている社員でも知らないことがたくさんあります。

まずは社内のことを社員が知るといえるのを手始めに、「OTSってこんなこともやっているんだ」ということを発信していければと考えています。

毎月のOpenTalkS! 発行が主な活動になってきますが、楽しみながらOTSの価値をより多くの方に伝えていければと考えています。

広報委員長
武藤 裕亮

人時プロジェクト

大事ななのは自分たちの現状を正確に知ること

これまでも全社で人時を取ることはしていましたが、今期はプロジェクト化したこともあり、より深く分析やカイゼンに繋げる活動をしてきます。皆、経験により大まかな生産性は把握しているかと思いますが、よりリアルな実績を基に人時を計測し、現状を知ることが第一と考えています。全社を通じ現状を数字という形で見ること、各工程における生産性のチャンピオンデータと言えるものも見えてくると思います。

そこで初めて自分たちの足りている部分、足りていない分を認識することができると考えています。良い部分をより良く、悪い部分はよい方向にカイゼンしていくキッカケを人時プロジェクトを通じて作っていければと考えています。一つの工程に対する適正人員 / 時間を知り、そこを目指すことでOTSはもちろん、お客様にとっても大きな利益となると考えています。

プロジェクトリーダー
村石 宇広